

日本学生オリエンテーリング連盟

第 42 回(平成 16 年第 2 回)日本学生オリエンテーリング連盟総会 議事録

2005 年 3 月 23 日

広報部長 下村佳奈

日時:平成 17 年 3 月 14 日 9:30 ~ 12:00

場所:ホテル山光(栃木県日光市)

出席:29 校 委任状:9 校 (全加盟校 41 校)

1.議長の選出

〇〇〇(京都橘女子大学 200)を選出。

2.「日本学生オリエンテーリング連盟後援に関する規定」の改正

賛成多数により、改正が承認された。

3.「総会の欠席に関する規則」の改正

21/29 校で改正が承認された。

4.渉外整備委員会設置の報告

堺幹事長より、「渉外整備委員会」を設置したことが報告された。この委員会は目的が達成された時点で解散される。委員長は堺信夫(大阪大 2001)。

5.「日本学生オリエンテーリング連盟におけるトレインと地図の管理に関する規則」の制定

23/29 校で制定が承認された。

6.ペナルティーについて説明

日光地区の開放に伴い、不適切な活動を行った加盟校に対してペナルティーを与えることについて検討してきたが、加盟校を信頼するという意味でペナルティーを設けないことになった。

7.新規加盟校の初年度登録費免除について

学生のオリエンテーリング競技者、クラブの増加、活性化をはかることを目的としている。定着化をはかるために、2 年目についても免除してはどうかという議論になったが、それは来年度に持ちこすこととなった。

8.幹事会と事務機構の整備について報告

幹事会及び各事務機構について、より効果的に運営していくために整備を行ったことを

日本学生オリエンテーリング連盟

報告。幹事会については、幹事長不在の際に速やかな対応が取れるように、副幹事長を幹事長が指名することとなった点が大きな変更点である。次に事務機構について、まず事業部は主にインカレに携わる機関として、よりしっかりとした体制を整えていく。広報部は、IT化の流れに伴い、ITのスキルを持った人が関与した体制へ整えていく。事務局は、地区学連事務局と連携し、より密接に関っていくこととなった。

9.普及部設置準備の報告

普及部の設置及び、準備について普及部より報告があった。普及部とは、これまでは有志、有志大学によって行われていた普及活動に対して、日本学連が積極的に関与、また援助していくために設置された部門である。現在は関西地区部門が先行して活動を行っている。

10.「日本学生オリエンテーリング連盟規約」の改正

24/29校で承認された。

11.「日本学生オリエンテーリング連盟幹事会及び事務機構に関する規則」の制定

27/29校で承認された。

12.平成17年度日本学連幹事選出

資料の通り、平成17年度日本学連幹事が選出され、全員承認された。

13.保険について説明

理事の広江氏より説明があった。これまで日本学連ではAIGの損害保険(21万円)に加入

していた。しかし、一例として2002年度の愛知インカレでは(会場としても利用させて頂いた小学校から借りていたテントが強風によって破損した)保険がおりなかったなど、有効かどうか疑問視された。このため、この保険についての見直しを行い、当面は無保険というかたちをとることとした。

14.平成17年度予算案

技術委員の西脇氏より、ユニバ援助金と活動報告書については、毎年計上してはどうかという提案が出された。予算案は承認された。

15.2004年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ロングディスタンス競技部門の報告

堺幹事長(副実行委員長)より、来年度のロングでは加盟員の支援が必要と確認されたが、今回加盟員が運営に参加したことにより、来年度の愛知インカレへ向けての手応えを

日本学生オリエンテーリング連盟

得た、と報告された。

16.2004 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ミドルディスタンス・リレー競技部門の報告

針谷実行委員長より報告があった。大きなトラブルは無かったが、今後のインカレへつながら提言を幾つか示した。

- ・リレー競技の日、地図置き場の地図が風で飛んでしまい、選手を1-2分待たせた。
- ・学生の運営参加の重要性を感じた。
- ・ミドルの日のトレイル競技は、特に選手権クラスは午前・午後と2本のレースがあるために、制約が大きかった。トレイルはロングと組み合わせた方が良いのではないだろうか。
- ・今回のインカレでは、ゼッケンを付けていない、スタート時刻を知らずにスターと地区に来るなど、プログラムを把握していない学生がいた。主に新入生に対するプログラム内容のフォローを各大学もしくは地区学連ごとに行ってはどうか。

17.2005 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ロングディスタンス競技部門 実行委員会設置の報告

藤本氏より報告があった。実行委員長は長田氏(京都 1999)。開催日は2005年11月6日、要綱1は近日中に公開予定。現在、運営者は関西学連出身者がメインであり、東海地区学連出身者がいない。更に、現在の運営者だけでは人数が不足している。そのため、日本学連に運営者募集の協力をお願いしたい。更に、学生の運営参加も積極的に行ってほしい。

18.技術委員会報告

西脇氏より報告があった。

- ・地図調査講習会を開催したが、日程の関係で参加者は少なかった。
- ・関東リレー併設で学連合宿を開催した。例年通り多くの参加者があった。
- ・インカレミドルのシード選手を理事会へ推薦。
- ・今年度インカレリレー競技のイベントアドバイザーを担当
- ・2005年度インカレロング及びミドル・リレーのイベントアドバイザーの選出(まだ未定)
- ・来年度はコースプランニング講習なども開催する予定。

19.インカレ開催地アンケート結果の報告

高橋氏(インカレ開催地アンケート担当)より報告。アンケートを行ったが、TCWGの山口尚宏氏の指摘より、トレインは2年半前に決定しなければならないため、愛知以外は不可能であるという結論に至った。アンケートについては25校より回答を頂いたが、今回のアンケートで求めていた採算性に関する意見は少なかった。

20. JOA 競技者登録についての説明

2004年度の競技者登録の代行がまだ完了していない。次年度についてもまだ検討中である。

21. 各部局報告

事業部：インカレ運営及び、後夜祭の運営を担当している。

広報部：いぶき第3号を配信、公式サイトリニューアルした。

事務局：JOA との関係について要望書を送付するなどやりとりを行っている。

22. JOA との関係について報告

JOA との関係については、今年度 JOA の選手登録を学連で一部代行、またインカレを JOA 主催である東日本大会に併設など、例年より密接に関っている。JOA では、学連理事の派遣を要請する声もあり、来年度中には実現しそうである。今後、JOA とは提携の強化をはかっていきたい。

23. 理事会報告

広江氏より報告があった。

- ・新理事の推薦について報告された。内容については議事 24 を参照。
- ・財務体質について。現在日本学連の収入は縮小化しており、このままだと学生界の弱体化も懸念される。財務体質強化をはかる具体策として、賛助会員登録を増やすことがあげられる。
- ・JOA との関係については議事 22 を参照
- ・2005 年度全日本大会の開催協力

24. 新理事選出

新理事の推薦、及び幹事会での承認が報告された。新理事は、山口尚宏(筑波大 1995)と堺信夫(大阪大 2001)。

25. 地区学連活動報告

資料参照。北東地区学連の規約改正は承認された。

26. その他

山川氏より、WOC スタッフ募集のお知らせがあった。

27. 次回総会日程

日本学生オリエンテーリング連盟

平成 17 年 11 月 5 日(インカレロング前日)愛知県にて開催予定。

以上